

# 学校法人 加計学園 平成20年度事業報告 【 倉敷芸術科学大学 】

## I. 事業概要（全般）

### 《申請関係》

平成21年度に向けて、志願者の多い生命科学科を45名に、生命動物科学科を65名に、生命医科学科を45名に、観光学科を45名に定員増し、美術工芸学科を40名に、デザイン学科を30名に、IT科学科を30名に定員減する定員変更をしました。通信教育課程についても「数学」の教員免許状取得できるよう大幅なカリキュラム変更しました。

留学生別科（1年コース30名、1年半コース10名）の定員変更並びに神戸留学生別科（1年コース60名、1年半コース40名）を開設する届出を行いました。

### 《人事》

改組、新設した芸術学部美術工芸学科、デザイン学科、産業科学技術学部観光学科、生命科学部生命医科学科に学科主任、新設する学習支援センター、健康管理センターにセンター長の役職を設けました。

### 《教育研究計画》

- (1) 学習支援センターを設置し、入試の多様化などにより基礎学力が不足している学生に不得意科目の学習を支援して、専門知識の修得に努めるよう学生のサポート体制を整えました。
- (2) 開学して14年目となるため、施設・設備の修繕等の必要が生じており、年次計画により修繕・設備の更新を行ないました。
- (3) 文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採用された3年計画の取組が終了しました。（実施期間：18年度～20年度 総事業費17,630千円）
- (4) 文部科学省へ岡山大学、岡山理科大学、津山工業高等専門学校と連携して申請した「戦略的大学連携支援事業」が採択され、「科学Tryアングル岡山」を組織し、連携大学と共に年次計画をもとに取り組んでいます。（実施期間：20年度～22年度 20年度事業費76,000千円）

### 《組織関係》

留学生室を学生部に統合して学生部留学生課とし、会計課と用度課を統合して経理部経理課としました。

## II. 大学の概要

### 1. 学生の定員現員数

(平成20年5月1日現在)

研究科・学部・学科等			定員数		現員数					
			入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	合計	
通 院	大 学	芸術研究科(修士)	20	40	16	8	—	—	24	
		〃 (博士)	4	12	2	1	2	—	5	
		産業科学技術研究科(修士)	16	32	5	15	—	—	20	
		〃 (博士)	4	12	1	1	4	—	6	
		人間文化研究科(修士)	15	30	5	3	—	—	8	
大学院 計			59	126	29	28	6	—	63	
制 学 部	学 部	美術学科	—	120	—	42	42	40	124	
		美術工芸学科	45	45	46	—	—	—	46	
		メディア映像学科	30	150	24	41	53	35	153	
		工芸・デザイン学科	—	110	—	19	35	46	100	
		デザイン学科	35	35	34	—	—	—	34	
	計			110	460	104	102	130	121	457
	産 業 科 学 部	I T 科学科	40	220	23	30	57	47	157	
		生命化学科	—	—	—	—	—	—	—	
		起業経営学科	30	140	35	36	29	28	128	
		観光学科	40	40	49	—	—	—	49	
	計			110	400	107	66	86	75	334
	国 際 教 養 学 部	教養学科	—	—	—	—	—	—	—	
		起業学科	—	—	—	—	—	1	1	
		計	—	—	—	—	—	1	1	
	生 命 科 学 部	生命科学科	40	330	57	91	113	114	375	
健康科学科		60	230	61	70	67	69	267		
生命動物科学科		60	168	67	83	50	—	200		
生命医科学科		40	40	39	—	—	—	39		
計			200	768	224	244	230	183	881	
学部 計			420	1,628	435	412	446	380	1,673	
通学制 計			479	1,754	464	440	452	380	1,736	
信 制 学 部	大 学 院	芸術研究科(修士)	10	20	3	6	—	—	9	
		産業科学技術研究科(修士)	20	40	0	0	—	—	0	
		人間文化研究科(修士)	30	60	3	5	—	—	8	
	通信制大学院 計			60	120	6	11	—	—	17
	学 部	産業科 学技術 学部	コンピュ ータ情報 学科	200	1,300	6	5	10	17	38
計		—	—	—	—	—	—	—		
計			200	1,300	6	5	10	17	38	
部	国際教 養学部	起 業 学 科	—	—	—	—	—	—	—	
	通信学部 計			200	1,300	6	5	10	17	38
通信制 計			260	1,420	12	16	10	17	55	
留学生別科			30	30	33				33	
合 計			769	3,204	509	456	462	397	1,824	

(単位：人)

### 2. 学年暦

	春期休業	入学宣誓式	夏期休業	冬期休業	学年末休業	学位記授与式
倉敷芸術科学大学	4月1日 ～4月4日	4月5日	8月3日 ～9月23日	12月19日 ～1月7日	3月4日 ～3月31日	3月23日

### Ⅲ. 各事業の概要

#### 1. 教育・研究活動の進捗状況

- (1) 通信教育課程は、コンピュータ情報分野だけでなく、芸術デザイン分野、健康管理分野、起業経営分野の科目を取り入れて、生涯学習や自己研鑽的な役割も持たせるようカリキュラムを変更しました。
- (2) 学習支援センターを設置し、入試の多様化などにより基礎学力が不足している学生に不得意科目の学習を支援して、専門知識の修得に努めるよう学生のサポート体制を整えました。また、学生をサポートする人員を常時配置して、ひとりひとりの学生が持つ能力を引き出し、それぞれにあった教育を行ない、学生の満足度を上げて退学者の減少に努めました。
- (3) 引き続き加計コンソーシアムでの「サイバーキャンパス」、大学コンソーシアム岡山を活用して、特色ある他大学の講義を受講させ、学生の幅広い知識の修得に努めました。
- (4) 今年度で最後になる現代GP「人生を展望した総合的キャリア教育の実践」の取り組みにより、学生と地域住民、産業界、行政と一体となって活動していくことで、地域の活性化（まちおこし）に貢献すると同時に、学生は仕事体験による得がたい実地教育を受け、「キャリアチャレンジ」として単位を修得しました。
- (5) 文部科学省へ岡山大学、岡山理科大学、津山工業高等専門学校と連携して申請した「戦略的大学連携支援事業」が採択され、「科学Tryアングル岡山」を組織して、連携大学と共に「科学による地域の活性化」に年次計画をもとに取り組んでいます。
- (6) 産学官連携（岡山TLOなど）による研究を推進して、研究による地域貢献、社会貢献を行ない、外部資金獲得に努めました。
- (7) 開学当初からの無線LANの環境を活用した研究を生かして、野外行事での映像配信、ケーブル配線のない遠隔地、山間部などでの受信、送信による地域貢献に努めました。

#### 《FD・SD》

授業アンケート2回、学生満足度アンケート、公開授業、FD報告書の作成に加えて、新規にFD講演会を3回、SD研修を2回実施しました。

- (1) FD講演会 「キャリア教育の実践と評価」  
講師 三重大学特任教授 宮崎冴子女史 (H20.9.12実施)
- (2) FD講演会 「ジェンダーについて学ぼう」  
講師 倉敷市市民環境局人権政策副参事 山坂敏美女史 (H20.12.8実施)
- (3) FD講演会 (大学院) 「医薬品の現状と将来」  
講師 日本ケミファ(株)創薬研究所長 山川富雄氏 (H21.1.9実施)  
「抗インフルエンザ薬タミフルの現状と最近の新規合成法」  
講師 本学大学院機能物質化学専攻教授 萬代忠勝氏 (H21.1.9実施)
- (4) SD研修会
  - ・日本語検定を推進し、実施しました。(H20.11.7実施)
  - ・「知的財産セミナー」を開催して、意匠制度、商標制度、著作権制度などの仕組みについて学び、各自の社会的な知識向上に役立てる研修会を実施しました。(H20.12.4実施)

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成20年5月1日現在)

		入学者	留学生	社会人
大学院	博士	3	0	1
	修士	26	4	0
大学院(通信制)		6	0	—
学部		435	62	2
学部(通信教育課程)		10	0	—
別科		33	33	—

(単位：人)

卒業者数等一覧 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

		卒業者・ 修了者	退学者	満期退学者	除籍者	休学者	留年者※
大学院	博士	5	0	1	0	0	1
	修士	25	0	0	0	0	0
大学院(通信制)		8	0	0	0	0	1
学部		369	44	0	27	19	38
学部(通信教育課程)		2	0	0	0	0	11
別科		29	2	0	0	0	2

※ 修業年限を超えて在籍している学生数

(単位：人)

## 2. 学生の募集・広報活動

従来の基本路線を継承しつつ、少しでも志願者、入学者の増加を目指して、新たな取り組みを行いました。

### (1) オープンキャンパスの充実

7月、9月に実施する従来のオープンキャンパスに加えて、6月に学生が企画運営するオープンキャンパスを新たに実施し、高校生に親しみやすい大学をアピールしました。

### (2) 進路担当教員、担任教員、受験生、保護者等への広報

### 3. 就職活動状況

- (1) 2、3年次生を対象に職業適性自己理解テストおよびSPI試験を2回実施して、自己分析を促しました。4年次生は、学部・学科・専攻・コースにより就職・進路状況が異なるため、個別相談を年間通して行い、支援しました。
- (2) 各学部ごとにスタッフを配置し、個々の学生と連絡を取り、履歴書の書き方、面接指導等に重点を置きながら指導・支援を徹底しました。
- (3) 企業訪問（採用情報収集、採用依頼）では、新たに生命動物科学科の求人開拓を行い、昨年同様、医療機関への求人依頼も積極的に行い、希望地域、業種の情報収集を行いました。
- (4) 企業担当者を学内に招き、学生との個別面談等を行う学内企業懇談会を2月に3年生を対象に実施し、早期の就職活動の支援を行うため87社が来校し、学生179人が参加しました。また、企業の単独説明会においては、23社が来校し、87人の学生が参加しました。
- (5) 合同就職懇談会（10月福岡、11月東京、3月大阪・広島で企業担当者と教職員の情報交換会）を実施し、本学が幹事校をする広島会場では171社が参加しました。
- (6) インターンシッププログラムを計画し、ハイパーキャンパス利用を含め、21人の学生が参加しました。
- (7) 8月からリクルートスーツでのガイダンスを実施し、就職に対する学生の意識向上を図り、SPIの演習も新たに導入しました。3年次生対象のガイダンスは下記のとおり実施しました。
- ・就職ガイダンス15回開催し、全て終了。
  - ・職業適性自己理解テストを6月に1日5回3日間実施
  - ・SPI適性模擬検査2回（7/2, 10/22）実施
  - ・就職対策講座2日間（8/6～7）開催
  - ・公務員採用試験対策講座を9月に開催
  - ・4年次生による企業内定者報告会を1月に開催
  - ・企業担当者による業界説明会を11月に開催
  - ・OB・OG報告会を10月に開催
  - ・就職実践模試（START）エントリーシート攻略テスト6日間（11/13～18）実施
  - ・就職対策講座3日間（12/18～20）開催
  - ・模擬面接：（個別、グループ面接）指導随時実施
  - ・論文・作文の添削指導
  - ・メイクに関するガイダンスの導入

#### (8) 就職内定率及び就職内定率の推移

区分	年度	修了者数	就職希望者数 A	就職			進学者数 (大学院)
				就職 B	未就職	内定率 B/A	
大学院	16	39人	11人	10人	1人	91%	4人
	17	26	12	9	3	75	4
	18	17	8	6	2	75	1
	19	22	11	10	1	91	2
	20	24	13	13	0	100	1
学部	16	336	201	187	14	93	22
	17	315	191	182	9	95	37
	18	337	253	246	7	97	26
	19	394	266	246	20	92	32
	20	367	240	221	19	92	30

#### 4. 財務関係

##### 主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	19年度決算額	20年度決算額
学納金収入	2,768,733	2,688,645
補助金収入	477,017	472,023
その他収入	108,440	152,542
帰属収入合計	3,354,190	3,313,210
基本金組入額合計	△ 17,285	△ 28,487
消費収入の部合計	3,336,905	3,284,723
人件費	2,124,871	2,203,001
教育研究経費	1,074,763	1,113,874
管理経費	258,585	268,688
その他支出	25,853	25,903
消費支出の部合計	3,484,072	3,611,466

#### ○収支改善対策の具体的取組と効果

倉敷芸術科学大学の教育理念に基づく教育研究を行うために、健全な財務体制となるように下記のとおり改革・改善を行いました。

##### (1) 学生の確保による収入改善

各学部学科で学生確保のための特別予算（教育活性化予算）を昨年に引き続き計上し、学部学科の新たな試みに対して補助しようと計画しました。

具体的には、学部学科配分予算から捻出した予算を元に大学認知度向上に努めた事業に対して、補助を行う学内制度を立ち上げ、高校生や社会人向けの講座・体験実習等を行い、学生確保に成果を上げました。

##### (2) 退学者、除籍者の減少による収入改善

平成17年度から実施している、退学者に必ずチューターが面談し、退学理由やそれに至るまでの経緯を面談票に記入することで退学理由を把握し、退学者を一人でも少なくする指導を引き続き行いました。学納金未納による除籍対象者へも事務からだけでなく、チューターや学科主任から本人、保護者へ学納金の納入、早急な延納処理の督促連絡を行い、除籍者の減少に努めました。

また、今年度より学習支援センターを設置して、平成20年度は延べ553件の相談があり、各自の能力に応じた勉学のサポートを行い、未修得による退学者の減少に努めました。

##### (3) 補助金・寄付金など外部資金の獲得による収入改善

補助金や寄付金を受けた者が通常予算に加え、外部資金の獲得に要した申請業務の事務費として増額配分することで、補助金・寄付金などの外部資金を獲得する意欲ある教員、特色ある研究者を増やす環境をつくり、収入増となる制度を導入しました。（5件申請）

##### (4) 各学部学科配分予算の見直しによる支出改善

各学部学科配分予算について、配分原資の見直しをして、支出を抑えると同時に補助金等の外部資金獲得者へ圧縮された補助金額の補填を図り、研究支援金に充当する方法を導入しました。

(11件申請)

(5) 教員採用抑制による人件費の支出改善

受講者数の少ない科目、学科の改編などにより現状と乖離している科目などカリキュラムを見直し、非常勤講師の委嘱時間数を極力少なくするよう検討して、人件費の削減に努めました。

また、今後退職が予定される教員が担当する科目について、教員補充をしなくても学部学科を横断した教員移動により、学部三位一体化構想を踏まえて、新たに特色が生まれるような学科教員構成やカリキュラム構成を模索して、教員採用の抑制による人件費の削減に努めていきます。

(6) 教育研究経費・管理経費の見直しによる支出改善

原油の高騰による光熱水費や原材料費の上昇に対応するため、節電や消耗品の節約に努めるだけでなく、省電力設備の導入、効率の良い設備の運用を導入経費と比較しながら模索して、省エネルギー対策による経費の節減に努めました。

また、経費の中で慣習化した項目を見直し、より効率の良い、現状に合った内容に変更したり、取りやめることで、財務改善や業務改善を行いました。

《施設・設備関係》

(1) 施設の整備

建物支出

- ・ 11号館ピロティ改修工事 (9,476千円)
- ・ 学習支援センター改修工事 (1,600千円)
- ・ 5号館無停電電源装置工事 (8,900千円)

構築物支出

- ・ 校内照明設備工事 (1,680千円)

(2) 設備の整備

教育研究用機器備品支出

- ・ 水生生物飼育増殖教育装置 (13,781千円)
- ・ 防犯カメラ14台他設備 (19,839千円)
- ・ 全学部・学科実習用機器 (13,515千円)
- ・ 電話交換機更新 (14,700千円) リース導入
- ・ マックPC設備更新 (16,170千円) リース導入
- ・ 硝子溶解炉の更新 (7,875千円) リース導入

図書支出

- ・ 生命動物科学科図書19冊 (820千円) 創設
- ・ 観光学科図書120冊 (2,000千円)
- ・ 全学部・学科用図書 (34,009千円)

《補助金関係》

(1) 文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代GP) の実施 8,500千円

(2) 文部科学省戦略的大学連携支援事業 (科学Tryアングル岡山) の実施 12,000千円

(3) 経済産業省エネルギー教育地域拠点大学 262.5千円

(4) 科学研究費補助金 7件 7,904千円

(5) 共同研究 5件 3,100千円

(6) 受託研究 3件 3,097千円

(7) 研究助成 3件 1,450千円

(8) 寄付金 8件 6,100千円